



房総先っぼ紀行 / 犬吠埼編

2000年4月9日掲載

この2月、房総半島を一周した。犬吠埼から九十九里を経て野島崎、洲崎（すのさき）を回り富津岬からアクアラインを通るコースだ。道中は千葉県最西端、最南端、最東端を攻めたので、これは「房総先っぼ紀行」でしかない。

本来なら3月のネタにしたかった。しかし、我が牛柄のHDDが故障したため、やむなく4月に掲載することにする。

午前0時に家を出、首都高速から東関東自動車道を走る。東関道は、成田までは片側3車線で街灯もあるが、成田をすぎると2車線となり、街灯もICとPA以外はなくなる。

我がグレカリブの外気温計は0 を指している。さすがに2月の夜は寒い。

佐原香取ICで降り、ここから利根川沿いの国道356号線へ。「利根水郷ライン」という名前が付いている。

銚子までの距離が長い。走っても走ってもたどり着かないのだ。銚子をダイレクトに結ぶ高速がないので、深夜でも30分をかけて銚子に到着する。昼間だったら、何時間かかることか。

銚子市内に入れば、犬吠埼はすぐそこ。ただ、灯台の入り口でちょっと迷ってしまう。灯台の明かりは見えるのに、灯台の目の前までいけないのだ。

でも、何とか灯台前にたどり着く。そこは、車でいっぱいだった。たぶん、夜明けの磯釣りを待つ人々であろう。

車を降り、懐中電灯を片手に周辺を散策する。沖に目をやると、点々と明かりが見える。漁り火だ。

岬に「お決まり」の方位板を発見。ここは東の端っこである。そうそう、よく考えるとここ

から東9000kmは陸がないんだ。水平線の先の先の先のもーっと先に、アメリカがある。

一方、犬吠埼には海上無線標識局と船舶気象通報局がある。岬には、その送信用のアンテナがあるのだ。

海上無線標識局とは、船舶が電波の発信源からの距離と方位を測定し、船の位置をはじき出すための無線局。また、船舶気象通報局は、付近を航行中の船舶に対して、天候や波高を知らせるための無線局である。

灯台の目の前にいく。ここから灯台をデジカメで撮ると、こんな感じ。



これじゃあ光しか見えてない！でもデジカメのストロボは届かないので、これ以上は無理。

その代わりに、灯台の表札はうまく撮影できた。



それでも、かなり無理矢理に撮った。暗すぎてデジカメのAFが働かないので、懐中電灯で表札に光を当てて、何とかピントを合わせられるようにしたのだ。

時刻は3時。犬吠埼をあとにし、次の「先っぽ」野島崎に向かった。その模様は[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



房総先っぼ紀行 / 野島崎編

2000年4月16日掲載

今月は、「房総先っぼ紀行」と題して、2月に千葉県を一周したときの模様をお送りしている。今回はその2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

午前3時に犬吠埼を出発し、一路野島崎へ向かう。海岸沿いの銚子有料道を通るが、何と料金所は真っ暗。夜中は料金を徴収しないらしい。

その後も、九十九里沿いを通る県道「九十九里ビーチライン」と九十九里有料道路を走る。左側には九十九里が見えているはずだが、夜中なのでいかんせん何も見えじまい。

九十九里有料道路はほとんど直線で、とても走りやすい。何しろ、平均速度が90km/hも出せる。ほかの車もこのくらいにスピードなのだ。

この道も、料金所はただで通過。千葉県道路公社は太っ腹なのか？

「九十九里ビーチライン」が終わると、今度は国道128号「外房黒潮ライン」。大原、御宿を抜け、勝浦有料道路にさしかかる。地図上は国道のバイパスになっているので、てっきりJHの管轄と思いきや、実はここも千葉県道路公社の管轄なのだ。

ということは、ここも料金所をスルー。夜中のドライブはお得だね！

さらに車を進めて天津小湊、鴨川を通る。そして、「外房黒潮ライン」と別れて「房総フラワーライン」を走る。

千倉では、巨大な板の中に埋め込まれたライトを発見。こいつ、海に向かって光っているのだ。この正体をおわかりの方、メールでふくちゃんまで。

そんなこんなで、2時間半で野島崎に到着。意外に早くついた。

例によって、付近を探索。野島崎は、地形といい名前といい、その昔は島だったのではと思われる。それが海岸の隆起で本土と陸続きになったと勝手に推測してみた。事実はいかに？

岩肌に波が打ち寄せる。まるで某映画のオープニング。一定の周期で波が砕け散る。見ていて飽きない。

ところで、何だか人が集まっていることに気づく。実は、これが目当てだったのだ。



日の出である。6時半の日の出見たさに、ここ野島崎に集まってきたのだ。

野島崎は、房総半島の最南端。当然、記念碑も方位板も立っている。そこで、灯台をバックに記念碑を撮ってみた。



見えにくいかもしれないが、記念碑には「房総半島最南端の地」と刻まれている。これより

南は、延々と海が続くのだ。

を、今度は洲崎（すのさき）に向かう。この続きは[こちら](#)で。

完全に明るくなった「房総フラワーライン」

[\[トップページ\]](#)



房総先っぼ紀行 / 洲崎編

2000年4月23日掲載

「房総先っぼ紀行」の3回目。1回目は[こちら](#)から、2回目は[こちら](#)からどうぞ。

朝7時前に野島崎を出発し、南房総を一周する「房総フラワーライン」を走る。ふくちゃんが訪れた2月中旬は菜の花のシーズン。道ばたの至るところで菜の花が咲き乱れていた。



写真の右端に小さく写っているのは、我が愛車グレカリブ。「つれづれWEB」初登場である。

しばらく走ると、前方に灯台を発見。これが洲崎（すのさき）灯台だ。

東京湾に入ってくる船舶は、対岸の三浦半島にある剣崎（けんざき）灯台とこの灯台を目印にしている。それだけ、重要な灯台といえるだろう。

で、洲崎灯台に近づこうとして車を走らせるが、道がどんどん細くなるばかりで灯台に近づかない。そして、しまいには行き止まり。

ところが、今度は引き返そうにもなかなか引き返せない。Uターンしようにも、狭くてできないのだ。

それでも、何とかUターンを試みて成功。灯台に近づくのをおきらめざるを得なかった。

仕方なく、灯台がよく見えるところから写真を撮る。



この灯台は観光スポットにはなっていないようだ。そんな思いを胸に、洲崎をあとにする。

「房総フラワーライン」は、館山で終わり。館山からは、「内房なぎさライン」を走る。

館山市内は海岸沿いでカーブも少ないが、北上していくと次第に山がちになってくる。カーブもトンネルも多い。

途中、有料道路の看板を発見。そのまま看板に従うと、有料道路の入り口にたどり着いた。

しかし、この道は持参した地図に載っていない。だから、どこに連れて行かれるのかわからない。でも、とりあえず乗ってみる。

左側には、山の間から東京湾が見える。どうも「内房なぎさライン」こと国道127号線と平行に走っているようだ。

10分ほど走ると、もう終点。標識に従うと、127号に合流した。

あとでわかったが、この道は「富津館山道路」というらしく、将来は館山自動車道と連絡する計画のようだ。地図には、せめて「建設中」の点線ぐらい書いてほしかった。

国道127号と別れ、国道465号を富津岬方向へ。ほどなく、富津岬のある富津公園にたどり着く。富津岬の様子は[こちら](#)をどうぞ。

[\[トップページ \]](#)



房総先っぼ紀行 / 富津岬 & 海ほたる編

2000年4月30日掲載

今月は「房総先っぼ紀行」をお送りしているが、今回がいよいよ最終回。最初からご希望の方は[こちら](#)を、2回目は[こちら](#)を、3回目は[こちら](#)をご覧ください。

朝9時前に、富津岬のある富津公園に到着。この公園は、全体が防砂林で覆われている。公園内を進むと、その終点が富津岬。岬周辺は駐車場になっている。岬には展望台があったので、早速登ってみる。



展望台の最上部に登り、パノラマを楽しむ。海の方に目をやれば第一、第二の両海堡が見えるし、陸地の方に目をやれば、自分から陸地が広がっているように見える。

ところでこの展望台、実は結構揺れるのだ。展望台が1つの柱でしか支えられていないので、グ～ラグ～ラと揺れる始末。強風が吹いたら、船酔いしそうだ!?

富津岬をあとにし、木更津へ。途中、上空にたくさんの飛行機を見る。この付近は、羽田に降り立つ飛行機の通り道なのだ。

数分に1回の割合で上空を通過する飛行機を頭上で感じながら、木更津港に到着。ここで散策する。

木更津港の中にある中の島公園は、潮干狩りができる場所。しかし、私が訪れたのは2月半

ばなので、シーズンではない。小さいころ、親に連れられてここへ潮干狩りにきた記憶がある。それ以来、約20年ぶりになるだろうか。

中の島公園に行くには、中の島大橋を通らなければならない。自転車用の歩道橋のように、つづれ折りの坂をいくつも通って橋を渡る。

小さいころ、この坂がきつく感じられた。泣きじゃくこともを連れた家族を見ながら、20年前の自分を投影してみる。

公園から、今度は港にある土産物屋へ。木更津港は、その昔川崎行きフェリーが出入りしていた。しかし、アクアラインのできた今、すっかり寂れたようだ。

この土産物屋で、変なものを発見した。それは「鯖カレー」の缶詰。「鯖みそ」のみそがカレーになったようなものだろう。

でも、とても気に入ったので、珍味などと一緒に購入。ちなみに、カレーとはいえご飯にかけて食べるようなものではないことを付け加えておこう。

そして、今回の紀行の裏目的を達成するときがきた。アクアラインを通るのだ。

木更津金田ICで4000円を払い、海の上を走る。2月半ばにしては暖かな日なので、気分もよい。

4kmあまりの橋を通ると、目の前に海ほたるが見えてきた。もちろん、海ほたるに立ち寄り。

川崎側からの車は駐車場待ちの長い列ができているが、木更津側からは皆無。難なく駐車場に入れることができた。

海ほたるは一大レジャー施設の様相だ。時間も昼前というだけあって、たくさんの観光客が押し寄せていた。

とりあえずここで昼食をとることに。いくつも飯屋があるが、「あさり丼」にひかれてしま

った。ドリンクをつけて1000円ちょっとというのは、なかなかリーズナブルだ。

昼食のあと、散策。海ほたるは、ちょうど東京湾の真ん中にあるため、湾内が一望できる。東京タワーも、横浜のみなとみらいも、幕張のビル群もよく見えた。

海ほたるには、「海めがね」という施設がある。これはアクアライン建設の様子を展示した資料館で、橋とトンネルの工法や「海ほたる」の名前由来となった生物（本物の海ほたる）などが展示されているのだ。

そして、休日になるとこんなのが出現するらしい。

海ほたるのイメージキャラクターが歩いて



いたのだ。名前は忘れたが、子供たちから写真責めになっていた。

海ほたるを出ると、そのまま川崎方面へ。10km近くあるトンネルを通り、自宅に戻る。

これで「房総先っぽ紀行」は完結した。どうも、ふくちゃんは岬が好きらしい。今度は、どこの「先っぽ」を攻めようかな？

[\[トップページ\]](#)